

斜里町地球温暖化防止実行計画

令和3年度の結果について

令和4年11月

1. 実行計画の策定目的

近年、地球の温暖化が加速しており、それによって地球環境に様々な悪影響が及ぶ可能性が指摘されています。地球温暖化の進行は、異常気象の増加、気候の変動により生態系及び人類に深刻な影響を及ぼすものであり、私たちの身近なところにおいても問題を発生させ、自然環境や生活環境への影響が懸念されています。

斜里町では、役場の事務事業に伴い排出される温室効果ガスの削減のため、平成27年に「斜里町地球温暖化防止実行計画」（以下、「実行計画」）を策定し、平成30年に「第2期 斜里町地球温暖化防止実行計画」（以下、「第2期実行計画」）を策定致しました。

この実行計画は、平成31年度から令和5年度までの5年間を計画期間とし、平成34年度における温室効果ガス排出量を基準年度である平成29年度と比較して9%削減することを目標とし、取り組みを始めました。

2. 実行計画の進捗状況について

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく実行計画として、平成27年度から実行計画の取り組みを推進し、町の事務事業に伴う温室効果ガスの排出削減に努めています。

結果、平成30年度に町の事務事業から排出された温室効果ガスは、基準年度である平成25年度と比較して、減少しており、「実行計画」の平成30年度目標をクリアしていません。減少した要因としては、日々の啓発活動や、取り組みの定着が考えられます。

平成30年に策定した第二期実行計画では、二酸化炭素排出量の少なかった平成29年度実績を基準にしており、さらなる取り組みが求められています。

令和3年度は、基準年の平成29年度と比較して排出量は増加しております。公用車の低燃費車導入やコロナウイルス感染症の影響を受けての各施設の利用形態の変化など削減につながる動きはあったものの、エネルギー使用把握方法の検証等により把握可能施設の追加があり、基準年数値を超過した。

3. 今後の取り組み

政府は2013年度CO₂排出量を基準として、2030年度までに-46%、2050年度までにカーボンニュートラルを達成するという目標を掲げております。斜里町においても、これまで取り組んできております削減行動や新たな取組の検討などを引き続き行い、2030年度-46%、2050年度カーボンニュートラル実現に向け、様々な取組を進めていきます。

令和3年度 二酸化炭素(CO₂)排出量

単位: CO₂-kg

種別 \ 年度	基準年度 (平成29年度)	令和3年度	目標年度 (令和4年度)
ガソリン	75,206	62,426	
灯油	1,053,660	1,034,566	
軽油	292,235	270,619	
A重油	1,869,819	1,740,750	
LPG	25,518	24,531	
電気	3,733,558	4,290,673	
RDF	358,460	108,545	
計	7,408,455	7,532,110	

単位: %

種別 \ 年度	基準年からの増減率	目標年度からの達成率	備考
ガソリン	-20.5%		
灯油	-1.8%		
軽油	-8.0%		
A重油	-7.4%		
LPG	-4.0%		
電気	13.0%		
RDF	-230.2%		
計	1.6%		88.5%